

【JA2016 特別講演会「航空機産業育成のための他国の産学連携した特徴的な取り組み」実施概要】

1 実施日：平成 28（2016）年 10 月 13 日

2 実施者（共催）

公益財団法人航空機国際共同開発促進基金

JA2016 事務局（一般社団法人日本航空宇宙工業会／株式会社東京ビッグサイト）

東京大学航空イノベーション研究会

3 特別講演実施の背景

現在、我が国初の国産ジェット旅客機 MRJ の開発が飛行試験のため試験機が渡米するなど佳境に入っており、我が国としてこれまで以上に産学官が連携した航空機産業の推進が強く求められている。このため、国内外より広く航空宇宙に関する関係者が集まる国際航空宇宙展 2016（平成 28 年 10 月 12 日～15 日開催。以下「JA2016」という。）の特別講演者として完成機事業の先行国であるブラジル、フランス及びカナダから産学一貫した取り組みを進めている当事者を招聘し、また、我が国の産学官関係者との技術交流・意見交換を行うこととした。

4 特別講演会概要

JA2016 の開催場所である東京ビッグサイトにおいて、特別講演としてブラジル、フランス、カナダ 3 カ国からそれぞれ特徴的な取組が発表され、発表後に、各国が現状に至るまでに直面した課題や解決方策について意見交換を行った（モデレーター：鈴木真二東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授、司会：渋谷容東京大学総括プロジェクト機構特任准教授）。

OEM（Original Equipment Manufacturer：完成機事業を行うメーカー）を有する先行 3 カ国から招聘した大学／非営利団体の当事者と講演概要は以下のとおり。（組織名はいずれも仮訳。）

ブラジル：ITA（Instituto Tecnológico de Aeronáutica、国立航空技術大学、サンパウロ州）

・ Professor Donizeti de Andrade

・ 演題："Brazilian Aviation Experience: ITA's Professional Masters in Aeronautical Engineering and Aviation Safety and Continued Airworthiness"



・ 主なポイント：エンブラエル社・ITA による修士課程／人材育成プログラム

◇ 年間 6000 名の希望者から英語、技能等により約 100 倍の倍率で選抜する

◇ 専門に加えプロジェクトマネジメントや認証、CS（カスタマー・サポート）等完成機事業に求められる知識を習得させ、実務上の課題に基づき修士を取得

◇ エンブラエル社からの講師と ITA の教授で教育

フランス： I A S (Institut Aéronautique et Spatial、航空宇宙研究機関、トゥールーズ都市圏)

- ・ Key Account Manager, Mr. Etienne Fleury
- ・ 演題： "Collaboration framework between French aerospace industries & academia"



- ・ 主なポイント:産学一貫した実務高等教育体制、産業側による戦略と計画、産学調整の仕組み
 - ◇ トゥールーズは世界 2 位の学の集積。グランゼコール (ISAE) を頂点とする実務における高等教育機関体制が充実
 - ◇ Chair と称する産学協力の仕組みがあり、トップマネジメント (長期の方向性) と実務 (取組の実施) の 2 委員会にて調整
 - ◇ IAS (GIFAS が設立) は、産学の集積を背景に、主に外国向け人材教育や教育機関の設立、養成

カナダ： C R I A Q (Consortium de Recherche et d'Innovation en Aérospatiale au Québec、ケベック州航空宇宙研究革新連合体、ケベック州)、C A R I C (Consortium for Aerospace Research and Innovation in Canada)

- ・ Vice-President- Business Development & International, Dr. Alain Aubertin
- ・ 演題： "Connecting Industrial Needs with Research and Innovation Capacities, Supporting Canadian Aerospace Industry Competitiveness"



- ・ 主なポイント：航空機産業の育成と人材育成のためのしくみとネットワーク化
 - ◇ コンソーシアムが産学の連携を推進。OEM と地元企業の共同開発を進め、技術移転と地元産業の競争力育成
 - ◇ 複数の地元企業と複数の学が共同して実施することを要件に支援。積極的に外国企業とも連携。
 - ◇ 国レベルでも立ち上げ、国内の航空宇宙の機能をネットワーク化。(CARIC)

5 成果

先行 3 カ国の発表内容は、産学一貫した取組は航空機産業に必要不可欠であること、産業界が具体的にどのような人材等が必要かを示してリードし、産学双方が育成課程を共に作っていくのが必要であること、また、当初、産学は別々であり価値基準も別々であったこと、が共通していた。また、完成機事業をやらないのであれば航空機産業をやるメリットがない、という趣旨の発言が印象的であった。

本特別講演及び技術交流・意見交換によって、民間旅客機の完成機事業を先行して行ってきた諸国の実情を当事者の経験を通してつぶさに知ることができた。我が国がさらなる完成機事業の推進及び航空機産業の発展を図るにあたり、有益な資料として活用されることを期待したい。